

鳥取県西部地震関連地域の地下構造調査(平成13~14年度)

1 事業目的

鳥取県西部地震の従来の内陸地震と異なる

地表面に明瞭な活断層が確認されていない地域で発生、地震断層が地表で明瞭に認められない。

震源から比較的離れている弓ヶ浜半島北端部の境港市で、その周辺部よりも大きな揺れ。

今後の地震防災、地震動予測のための貴重な資料を得る

震源/余震分布域の深部地下構造を解明し地震発生機構との関連性を把握。

半島部の基盤までの堆積構造を解明し、異常震度域や被害分布などの関連性を把握

活用例 地震防災調査研究事業(平成14~16年度): 地震動予測 被害想定に活用

2 調査概要

(1) 調査委員会

鳥取大学工学部西田教授を委員長とする6人

(2) 調査対象地域

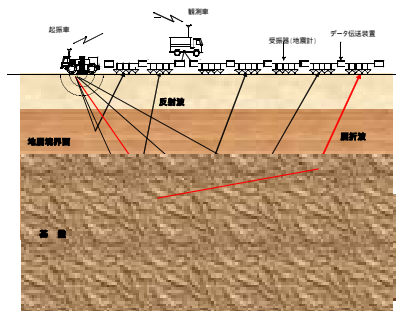
震源断層/余震分布域の深度30kmまでの深部構造
弓ヶ浜半島部の堆積構造(深度3km程度)

(3) 探査方法

約35kmの測線でのバイプロサイス反射法地震探査
約45kmの測線でのバイプロサイス震源と発破による屈折法・広角反射法地震探査
約60kmの測線でのMT法探査



起震車



反射法・屈折法探査概念図



調査位置図

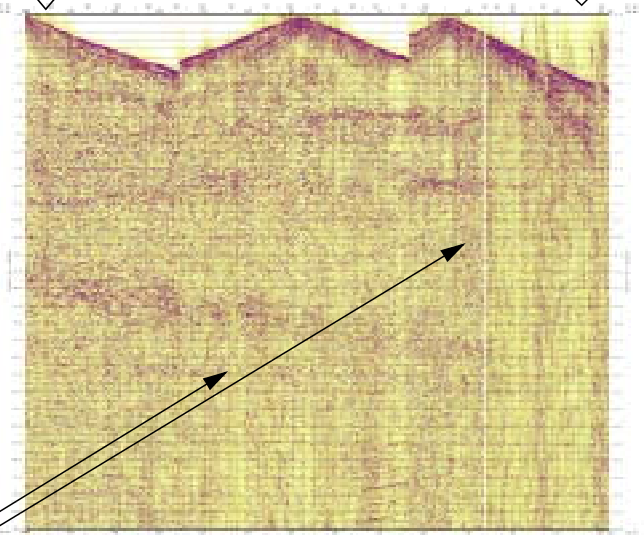
3 今後の予定

調査を平成14年度で完了し、現在、調査成果の概要版を作成中。

作成した概要版は県ホームページに掲載し、広く県民に広報する予定。(平成15年度末予定)

震源域(日野町)

弓ヶ浜半島



深部反射波